

Ok 写真教室の説明

カメラを通して日常の景色や自然の情景を再発見してみませんか！

写真教室 「デジカメ撮影術を学ぶ」 講座の内容

「写真が持つ力」として、表現が伝わる感動写真や記録写真で、その瞬間を蘇られる写真を目指す。
「写真のコツを知る」は撮影者の気持ちや被写体を見極める力や個性的な感性を磨くために「撮影術の基本」を学ぶ。

「撮影術の3つのコツ」を学んでください。

※簡単に言えば、3つのコツを勉強して楽しく撮影できれば良い。

写真撮影が少しでも上手になれるようにお手伝いができれば幸いです。



初心者 デジカメ撮影術3つのコツ！ (岡村流)

無限大にある被写体や要素を見つけるための感性を高める

被写体を見極める力や個性的な感性を磨くためにも写真撮影の基本的な構図を学ぶ

感性を元に日常的に見えない目線で独自の表現をする為にカメラ操作をする

写真を上手く撮るということは＝ 写真撮影の基本3つが必要！

撮影術を知ることは、感性を高め・被写体探して・構図を決めて・配置を決定する

撮影技術としてカメラの露出操作で、明るさ・ボケやブレを上手に表現できるようになる

※カメラ3大原則は、「絞り」「シャッター速度」「ISO感度」

①感性を高める

撮影術の必要性

撮影術を知ることは、何をどのように撮るかを決定する手段につながる

撮影術を知ることは、感性を磨き表現力を高めることができる

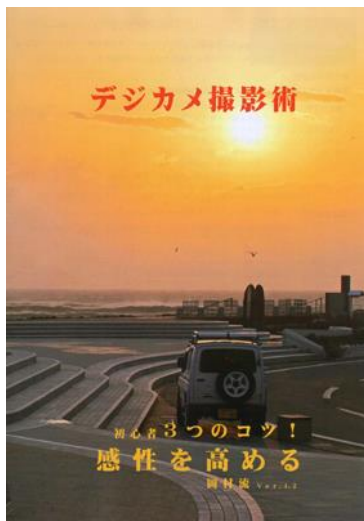
写真を表現するのは、カメラではなく自分自身

上手になることは、勉強と努力が必要

感性とは、何かを見たり聞いたりした時に深く心に感じ取る

感性とは、他人とは違った独特な考え方ができる

感性とは、固定概念がなく柔軟な考え方ができる



影のコツを知る 被写体を探す

感性は高めて上達！
個性は大切に！
独特の個性を生かす！
テーマを決める？ 決めない？
上手と下手の基準？
撮って、見て、感じるが秘訣

撮影したいものを「フットワーク」で「フレーミング」する

フットワークのポジション&アングルで強調する部分を見つける
さらに、レンズワークでフレーミングの幅を広げる
フレーミング（取込・排除）は感動する場面を探す



●感性を高める●
(全8ページ)

②構図を知ろう (その1・その2)

写真を上手く撮る＝写真撮影の基本的な「構図」を知る

人は被写体に対して、形・色彩・明暗・雰囲気・情緒などを感じて写真にする
写真はいちから作り上げる絵画と違い、思い通りに「画面作り」をすることができない
目の前にある現象を切取することで「感じたこと」を強調できる
サポートするための画面構成が「構図」である
構図を整えることで写真の良し悪しが決まるといっても過言ではない
構図は多種多様の表現方法があるが基本的な構図パターンを知っておこう

②構図を知ろう (その1)



写真を上手く撮る＝写真撮影の基本的な「構図」を知る

構図は意図的に配置すること
画面構成は「整理」と「対比」が重要である
人が美しいと感じる「美しい比率」
黄金比の中に黄金分割点がある
構図には「線分割」と「形配置」がある

基本的な構図パターン

点中心構図＝日の丸構図
二分割構図（横1）＝シンメトリー構図＝対象分割構図
二分割構図（縦1）＝シンメトリー構図 対象配置
二分割構図（縦2）＝シンメトリー構図 対象別配置



●構図を知らう(その1)●
(全8ページ)

②構図を知らう (その2)



基本的な構図パターン

- 二分割構図 (2) = シンメトリ構図 対象別構図
- 線構図ー1 = 斜線構図=対角線構図
- 線構図ー2 = く の 字・ジグザグ構図
- 線構図ー3 = 水平垂直構図 = 複数線構図
- 三分割構図 = 黄金分割構図
- 四分割構図 = 対角線構図=レイルマン比率
- 対比構図 = 大小パターン構図
- 遠近法構図ー1 = 放射線構図 収束点ー主題
- 遠近法構図ー2 = 消失点構図 収束点ー消失
- 曲線構図ー1 = S字曲線構図
- 曲線構図ー2 = C字曲線構図 = アーチ形構図
- ・面構図 ・額縁構図 ・額縁構図 ・黄金螺旋構図
- ・予測できない構図 等を説明



●構図を知らう(その2)●
(全8ページ)

③カメラ操作をする (その1・ その2)

撮影モードを知る

多くのデジタルカメラには札モードが搭載されている
意外と全モードで撮ると誰でも簡単に撮影でき失敗を最小限に防げる
ただし、簡単な反面に技術の上達はあまり見込めない
撮影者の意図的な仕上がりを目指すには・・・
撮影意図に応じたモードの選び方や使い方をすることが重要である

③ カメラ操作をする (その1)



露出を制御するモードの違い

自分通りに撮りたいなら5つのモードを理解

AUTOモード (オートモード)

撮影するシーンで絞り、シャッター速度、ISO感度を自動計算するモード

Pモード (プログラムモード)

明るさに応じてカメラが露出を判断して絞りとシャッター速度の両方が自動的に設定されるモード

※プログラムシフト

AVモード

撮影者が絞りを設定するとそれに対応したシャッター速度が自動的に選択されるモード

- ・絞り値とは
- ・絞ると開放とは
- ・被写界深度
- ・描写コントロール
- ・ボケ量コントロール



●カメラ操作をする(その1)● (全8ページ)

③ カメラ操作をする (その2)



TVモード (シャッタースピードモード)

撮影者がシャッター速度を設定すると絞り値が自動選択されるモード
シャッター速度 (シャッタースピード) とは

シャッター速度を変えると被写体の写り方が変わる

- ・動くものを意図的に表現
- ・被写体のブレ
- ・背景のブレ
- ・高速シャッター
- ・高速連写

Mモード (マニュアルモード)

撮影者がシャッター速度と絞り値の両方を設定するとモード

- ・長露光
- ・周囲の雰囲気と動く被写体を同時に描写
- ・背景と被写体が同じ明暗のとき
- ・背景の明るさが刻々と変化に対応



●カメラ操作をする(その2)● (全8ページ)

DNKI